

茂原市自治基本条例を考える市民フォーラム
ワールドカフェ 結果

平成 25 年 3 月 16 日(土)

会場:茂原市役所市民室

1.開催概要

平成 25 年 3 月 16 日(土)13 時～16 時

会場:茂原市役所市民室

主催:茂原市・茂原市自治基本条例を考える市民の会

第 1 部:

茂原市自治基本条例を考える市民の会報告

「自治基本条例についての基本的な考え方」

基調講演

「自治基本条例と市民参加」

講師:千葉大学法経学部准教授 関谷 昇氏

第 2 部:

ワールドカフェ(対話と交流) 参加者 27 名



2.ワールドカフェの結果

ワールドカフェとは、会議室で行われる機能的な「会議」よりも、「カフェ」で行うような、オープンで自由な会話を通して生き活きとした意見交換や新たな発想を生み出すという考え方に基づく話し合いの手法です。

本来はメンバーの入れ替えを行い、アイデアの拡散を行いますが、今回は第一部の時間が押した関係で、入れ替えを省略して時間を短縮し、4人で1テーブル、計7テーブルで行いました。

テーブルの中央に模造紙を置き、サインペンでメモを取りながら、話し合いを行いました。

最後に赤い付せんを配って「自分が今日大切だと思ったこと」「新たな発見だったこと」など、気づいた点を付せん1枚につき1点記入しました。

参加者：27名

テーマ：市民協働のまちづくり

(1)各グループの話し合い結果(模造紙上のメモより・順不同)

- 茂原市議会の公聴をしたいと思います。
- 自治基本条例のたたき台をくわしく理解できたらと思います。
- 選挙で当選した議員さんのマニフェストを知りたい。
- 自治基本条例は必要かな？自ら考え、自ら参加し、情報を。
- 情報が一方的。受け手の立場。
- 市議会議員が各議事に対して賛成したか賛成しなかったか、一人ひとりの情報がない。
- 市議会の開催日を広報に載せてもらえれば傍聴に行けるのに。
- 市の情報発信が少ない。
- Facebookは有効。
- 通年議会が必要。
- 若者が情報発信する機会・手段が少ない。
- 若者の参加する機会が少ない。
- 議会開催を土・日曜にも！
- まちづくり→イメージを勝手に使っている。→茂原づくりはどうか。
- 自治会同士の交流の場がない。
- パブリック・コメントに応募してもらいたい。
- 茂原市の観光人口を増やす。
- 地域活性化のテーマ性を考える。
- 幼少児の教育から参加の喜びを味わう。

- 環境問題を子どもとともに考える。ごみの分別等。
- 防犯もあいさつをしてコミュニケーションを図り防ぐ。
- 近所とはあいさつ程度。
- 自治会一部落での行事が重荷。
- 自治会より市民団体の方が入りやすい。
- 協働 ハリネズミの距離感。
- 自分の活動の輪を広げる場をつくりたい。
- 一人暮らし（子どもと3人）は難しいが頑張っている。
- 市民協働 近隣の人たちの助け合いは現状なくなってしまった。
- 市役所（行政）、議会は情報を持っているが市民には情報がない
- 他の地域から来た人は適切な距離間で付き合う
- 本当に困ったことは身内だけに近い（ごく親しい友人）
- 地域が最初から寄せ集まり 他の土着の人たちと異なるものがある。
- 転入してきて住みにくい？
- 新住民 外国人
- 自治会活動が活発 時間が合わなくて参加できない
- 上部機関への依存 上意下達 指示待ち
- みんなが参加すること
- がんに対する病気に市の窓口の受け皿がなかった。
- 茂原市の中の趣味やボランティア活動先を知らない。
- みこしを担いでまつりをしたい！地域住民の絆づくり
- 触れ合いサロンをもっと設け、気楽に集まりたい！
- 学校とのアクセスを多くして、地域の核にする。
- 市にワンストップ窓口がほしい。
- 自治会活動 特に若い人の参加が少ない。
- 参加したいがボランティアが良くわからない。
- 病院がない。

(2)自分が今日大切だと思ったこと、新たな発見だったこと(付せんより・順不同)

- 関谷先生のお話のとおり、その案件に関わる人に一人ひとり聞いていく。当事者に接していくということは、いつでも必要ですね。
- 若い方たちの市民参加の方法を考えたいと思います。
- 関心がないわけではない。情報が届かない。
- 市民の会だよりはよく読まれている。
- コミュニティに横串を通す方法として、自治会、PTA、消防団、民生員、防犯組織と連絡を取り合い、話し合いが必要なことでしょね。
- 自治会活動の中で、課題に対して積極的に乗ってこない会員が多いので、それを打

破するにはもっと会員の中に入っていないといけないことがわかりました。能力的・時間的に無理か？

- 関心を持つ人、今日の参加者が思ったより多く、うれしかった。
- 議論する時間がまだまだ不足している。
- ときどき、市民の会の発表する機会を設けた方が良い。
- 忙しくて参加できないので、自治基本条例はダメと批判するのではなく、忙しい人が市民参加をするためにはどうしたらいいかを考えるのが大切である。
- この条例ができることで、茂原がどのようになるかというイメージが大切！
- 地域コミュニティの横のつながりが大切。
- 健全なルール（自治基本条例）をつくる。
- 理念条例をつくらない。
- 若者が参加しやすい環境づくりをもっと考える必要性を感じた。
- 市民の会の討議内容をもっと市民に広く知らせたい。
- 条例制定が止まっている自治体がある。対応策。
- いろいろな機会に参加し、話し合っていこう。
- 議論の場をつくること。
- 行政主導の市政を発想転換する教育を考える。
- 地域活性化 関心あるテーマを考える。
- 多くの人が茂原市に対して興味を持って参加できる環境づくりが必要。
- 自治基本条例とは何ぞやということがわかった。
- 今日の参加は大変良かった（回覧板は大切）
- 若者を取り込むには、扉を開く、機会を増やす、自由にさせる
- どこがどう市民のニーズを集められるか。
- 議論が出れば出るほど収斂し、まとまっていくというのが目からウロコ。
- 地域の住人がお互いをよく知りあうこと。小さな出会いが大きな流れをつくることも！
- 他の行政の様子が分かった。
- 共同体はやはり必要である、ということ！
- 今日のような場を継続的に行うのが良い
- 準備不足だった。機会をつくる。
- 参加することの大切さや方法をみんなで学ぶのが第一歩。
- 横のつながり。
- まちづくり分科会に戻ってのワールドカフェ（＝横のつながり）になった。
- 積極的に参加してくれている市民を「市民の会」のメンバーにしてはどうか。
- 一般参加の方の発言があり、まさにパブリック・インボルブメントの大切さを感じた。

- 自治基本条例の必要性の再確認。
- 市民参加の重要性の再確認ができました。
- より具体的な項目を条例に盛り込むかが重要。
- 参加して良かった。
- 若い人も参加できる（関谷先生より）